

第16回

# 住まいの燃費性能把握 エネルギーパスを活用した住まいの燃費性能把握

今年4月から、新築戸建て住宅も「長野県建築物環境エネルギー性能検討制度」の義務対象になった。前回、この制度を活用して、住宅価格と燃費性能とのバランスを見ながら家づくりを進めることの大切さ、そして

「長野県建築物環境エネルギー性能検討制度」の指定評価ツールの中で、年間冷暖房に掛かる費用が算出できるツールの使用が望ましいことを説明した。そこで、今回は、冷暖房の光熱費を算出できる評価ツールである欧州指令（通称・EPBD）による「エネルギーパス」について説明したい。

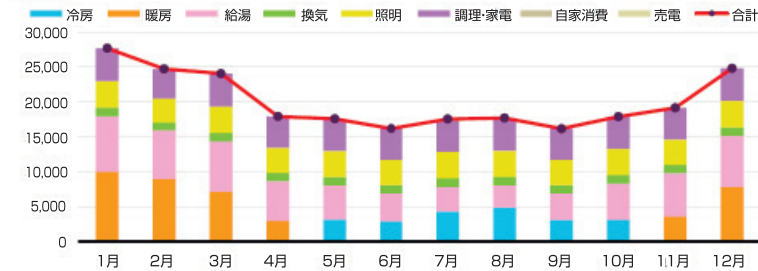
エネルギーパスは、ドイツ生まれの住宅・建築物の省エネルギー性能の評価指標だ。EUでは、2003年施行の「建築物のエネルギー性能に係る欧州指令（通称・EPBD）」により、全加盟国が家の「燃費性能」の算出や提示を義務付けている。具体的には、EPBDの第7条でエネルギー性能評価書について定めており、住宅・建築物の建設、売買、賃貸などの取引時にエネルギー性能評価書の取得・提示を義務付けているのだ。

EPBDの制度は、EU加盟国とにそれぞれ定めることになっており、ドイツなどは「エネルギーパス」が活用されている。このドイツのエネルギーパスを日本の気候や生活習慣に合わせた制度に改定して、我が国で普及促進を図っているのが、一般社団法人日本エネルギーパス協会だ。

このエネルギーパスは、「長野県建築物環境エネルギー性能検討制度」においても指定評価ツールのひとつになっている。一般社団法人日本エネルギーパス協会の理事の晝場貴之氏によると、エネルギーパスは他の主な指定評価ツールと比較すると、大雑把にいうと次の2点が優れているという。①住宅の断熱・気密性能、つまり住宅の躯体性能自体をきちんと評価することができる。②冷暖房に掛かる費用のシミュレーションを月単位で出すことができる。（図1参照）

特に、①に関しては、他の指標では設備も含めた総合的な評価のため、例えば太陽光パネルを設置すると躯体の断熱・気密性能が低くてもトータル環境エネルギー性能が良くなってしまい躯体性能が分かりにくいことがある。他の指標を用いる際には注意が必要だ。つまりエネルギーパスは、住宅価格と燃費性能とのバランスを見ながら住まいの断熱・気密等の躯体の仕様を決めるためにも分かりやすい評価ツールなのだ。

▼グラフ13



▼表11

	電気	ガス	灯油	木材	自家消費	売電	合計
消費エネルギー	5,765 kWh	86 m <sup>3</sup>	607 L	0 kg	0 kWh	0 kWh	売電含む
燃料単価(円)	30.7円	140.0円	102.0円	50.0円	0.0円	38.0円	251.164円
予想年間光熱費(円)	117,261円	12,038円	61,864円	0円	0円	0円	
次世代省エネルギー基準の場合の参考光熱費	5,628 kWh	636 m <sup>3</sup>	0 L	0 kg	0 kWh	0 kWh	264,601円

図1 エネルギーパスの光熱費シミュレーション

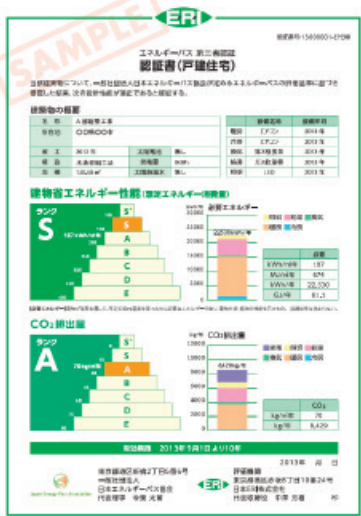


図2 エネルギーパス第三者認証書

毎週水曜日掲載 / 次回掲載は7月22日(水)予定

エネルギー性能のより高い建築

一般社団法人日本エネルギーパス協会 編  
03・62205・4492